

ITを活用した直行直帰の実現！

～時短・生産性を向上させる工夫～

①

「うちの主にインターネットの配線工事をやっているんだ。作業員には毎朝、現場に赴く前に事務所に出勤してもらい、朝礼で当日の現場や業務指示を行ってから、それぞれの現場に出発してもらっているんだ。だけど、先日、従業員から要望があったね。」

「どのような要望だったのですか。」

「事務所を出退勤を
確認している」

②

「それがね。事務所に行くのは手間だし、作業後は疲れているのに事務所に帰るのは余計に疲れるから、直行直帰したいという要望があったんだ。とは言っても、現場には一人で行かせているから、直行直帰だと当日の業務指示もできないし、管理が難しいと思うんだ。」

「直行直帰だからといって、管理が難しいとは思いませんよ。」

「労働時間の把握もできない」

③

「例えば、クラウド型の施工管理システムを導入して、モバイル端末を使い従業員への作業指示や図面提示、出退勤の管理を行ってみるのはいかがでしょうか。直行直帰による不安もクリアできます！」

「クラウドか」

「直行直帰することで
労働時間の削減にも
つながります」

④

「現場作業員に施工管理ツールがインストールされたタブレット（※）を使って、直行直帰で現場に向かえるようにしたところ、従業員からの評判も良く、業務効率も大幅に向上しました。ペーパーレス化、経費の節約にもつながっています。」

「業務効率は大幅向上！
労働時間は大幅削減！」

※ 原則として、汎用型パソコン、タブレット、スマートフォンは対象となりません。

取組事例紹介

業種：電気設備工事業 従業員数：22名

インターネットの配線工事は短時間で終わることが多いため、1日に何件も個人宅などの現場を回ることがある。そのため、当日の人員配置や業務指示を行う必要があり、全員を事務所に出勤させ、朝礼で指示を行っていた。従業員からは直行直帰にしてほしいという要望があったが、労働者一人で現場を回ることが多く、労働時間管理上の問題から直行直帰を認めないでいた。

- ＜現場作業員向けの施工管理業務にITツールの活用＞
- クラウド型の施工管理システムを導入する。
 - 現場作業員全員にタブレット端末を使用（※）する。
 - 労働時間管理については、施工管理システム及びタブレットに備わっているカメラを活用する。

※ 原則として、汎用型パソコン、タブレット、スマートフォンは対象となりません。



【施工管理システム導入費用を助成！】

- 働き方改革推進支援助成金
- ＜労働時間短縮・年休促進支援コース＞
- 助成率 75%
- (一定要件の場合、80%)
- 上限額 最大200万円
- (一定要件の場合、最大440万円)

◆助成金等には成果目標の達成状況等、一定の要件があります。

- ・当初は直行直帰による労働時間管理に不安を抱く従業員もいたが、クラウド型の施工管理システムのおかげで直行直帰でも適切に労働時間管理が行え、従業員の不安も解消された。
- ・直行直帰ができるようになったことで、作業を終えてから事務所に戻る手間がなくなり、従業員の疲弊が軽減された。また、労働時間が削減されたため、36協定の上限を引き下げた。

御社の働き方改革を「働き方改革推進支援センター」は応援します！

詳しくは当センター特設サイトへアクセス ▶

愛知働き方改革推進支援センター

検索



QRコードでもアクセス可能です！

愛知働き方改革推進支援センター【令和3年度 厚生労働省・愛知労働局委託事業】

相談窓口：名古屋市千種区千種通7-25-1 サンライズ千種3階（タスクール内）

☎ 0120-006-802

※受付日時：月～金曜日（祝日等を除く）午前9時～午後5時

✉ aichi@task-work.com